

自己評価結果公表シート

2019年度

幼保連携型認定こども園

八戸の里幼稚園

1. 本園の教育目標

[情操豊かな思いやりのある子ども] を目指しています。

- ・豊かな情緒のもと自己を十分に発揮し、自分でものを考え、何でも自分で出来、やる気十分な子ども。
- ・他の人々と親しみ、支えあい、思いやり、生きていける子ども。
- ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合うなかで情緒豊かで観察力を身につけた子ども。

2. 本年度重点的に取り組む目標

認定こども園になった関係で、保育者の数も急に増え、保育者同士の連携や保育についての共通理解が必要になってきた。そこで本年度は保育者の連携の在り方や、遊具・教材の扱い方などについて重点的に取り組んでいきたい。

3. 評価項目と達成状況

評価結果の表示方法

- A — 達成されている
- B — ほぼ達成されている
- C — 取り組まれているが、もう少し努力が望まれる
- D — 取り組みが不十分である

① 保育者同士の連携

評価結果

1・クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。	A
2・クラスの環境構成などについても、お互いにフランクに意見を交換している。	B
3・教職員全員が、全ての幼児について理解出来るよう様々な工夫をしている。	B
4・指導上配慮を必要とする幼児については、教職員全体でよく話し合い、共通理解を持って対応するようにしている。	B
5・幼児のことについて、常に保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	B
6・他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うよう、様々な工夫をしている。	A

② 幼児への対応

1・幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる。	A
2・幼児からのアイデアをくみ取って、遊びを深めている。	A
3・教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	B
4・幼児の心を傷つけるような言葉や、かかわり方をしないようにしている。	A
5・幼児とのスキンシップを取るようになっている。	A
6・幼児の話をよく聞くようになっている。	A
7・幼児が自ら考えたり、工夫したりできるような見守り方をしている。	A
8・幼児の家庭環境やこれまでの成育歴などを考慮してかかわっている。	A

③ 遊具、教材について

1・園の遊具や教材について、その特徴や基本的な使い方を知っている。	A
2・園の遊具や教材について、様々な利用方法を考えている。	A
3・園の遊具や教材について、子どもはどんな使い方をするのか予測できる。	A
4・園の遊具や教材について、どのような使い方が危険か分かる。	A

④ 園内の環境について

1・園庭や畑、砂場、アスレチックなどが幼児にとってどのような教育的意味を持つか理解し、保育に生かしている。	A
2・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、保育に生かしている。	B
3・園内の環境を、いくつかのまとまりとして、また関連性を持たせて保育の計画・実践に生かしている。	B

4. 取り組み状況

子ども一人一人の個性が活かされ、子どもが楽しく園生活を送れるよう努めている。
常に保育者同士が話し合い、クラス・学年を超えて情報を共有していくよう努めているが、
十分とは言えない状況である。

5. 総合的な評価結果

評価項目

①	保育者同士の連携	B
②	幼児への対応	A
③	遊具、教材について	A
④	園内の環境について	B

保育者の数が急激に増え、その上、話し合う時間も減り、戸惑っているというのが実情である。
総合的な評価としては B とせざるを得ない。

6. 今後取り組むべき課題

認定こども園になり、保育者全員で話し合う時間が取りにくくなってきたので、まず、
一人一人保育者同士で話し合い、理解し合ってその輪を広げ、お互いに助け合うよう
努めていきたい。

7. 学校関係者の評価

評価項目

①	保育者同士の連携	A
②	幼児への対応	A
③	遊具、教材について	A
④	園内の環境について	A

今までのほんわか、ゆったりとした八戸の里幼稚園の大好きな雰囲気は、減って来た様に
思いますが、保護者として新しいこども園を作りあげていくことに、目を向けていきたいです。

学校関係者委員会名簿

前川 和司	保護者会会長
小林 義人	保護者会副会長
大野 朋子	保護者会副会長
下農 良子	保護者会会計
西口 麻衣子	保護者会会計監査
野中 裕美子	保護者会書記
土山 佐代子	元職員
橋本 勝美	近隣住民 評議員
市川 洋子	キンダーカウンセラー

2 0 1 9 . 9
学校法人 大阪錦城学園
幼保連携型認定こども園
八戸の里幼稚園
園長 秋山 佐智子